



## 合唱祭で輝いた合唱部

10日(土)は、合唱部が合唱祭に出場しました。私も市民会館に観に行きましたが、子供たちが登場した瞬間、一年間でチームとしてのまとまりや安定感が出てきたことを感じることができました。曲は、「『～白雪姫より～』ハイ・ホー」と「トゥモロー」を歌いました。「ハイ・ホー」ではリズムに乗って振り付けをしながら歌い、本当に楽しげに元気いっぱい歌っていました。笑顔の子供たちは、素敵でした。「ハイ・ホー」の最後はフォルテシモでアクセントをはっきり



つけた決めポーズがカッコよかったです。「トゥモロー」は、「アニー」というブロードウェイミュージカルの中で使われた、ミュージカル曲で、主人公アニーの明るいキャラクターを表すかの如く、響きが明るくパワーを感じる音色で歌い上げてくれました。他校の先生からも「風格がありますね。」「一人一人の声がよく出ています。」などと評されました。

部長の隅田さんは「コンクールよりも気楽に楽しくできました。いつも以上に明るい声で歌えて、振りも完璧にできてよかったです。今後は、定期演奏会【3月2日(土)帯西体育館】に向けて、今まで歌った曲も振り返りながら、楽しく発表したいです。」と感想を述べてくれました。ご都合がつかれる方は是非来場ください。

合唱部の子供たちの一人一人の成長を感じることができ、「帯西ブルー」で心が満たされて会場を後にしました。

## バレンタインの歴史

今では、すっかり日本に定着しているバレンタインデーですが、バレンタインデーは単なる「告白デー」ではなく、最近ではお菓子を添えて、「日頃お世話になっている人への感謝を伝える日」というような位置付けにもなっているようですね。

このバレンタインの歴史は、西暦1207年2月14日、ローマの皇帝クラウディウスが結婚を禁じたのに反抗して殺された、聖人バレンチヌスを祭る日に由来しています。

当時、ローマでは2月15日にルペルカリア祭という、豊作を祈願する祭りがあり、その祭りの中で、若い娘が自分の名前を書いた札を桶に入れ、男が桶から札を引いて、札の名の娘と祭りの間、パートナーになるという習わしがありました。そして、そのまま結婚するということがあったようです。しかし、当時の皇帝・クラウディウスは、若い兵士の結婚は認めませんでした。なぜなら、妻を故郷に残した状態では、上の空になってしまうからです。ところが、キリスト教の司祭であったヴァレンチノ(バレンタイン)が皇帝に秘密で若者たちの結婚を行っていたため、皇帝は怒り、ヴァレンチノをローマ宗教に改宗させようとした。ヴァレンチノはこれに応じず、愛の尊さを説き皇帝に抵抗したため、2月14日に処刑されてしまったのです。後世の人々は、ヴァレンチノ司祭の勇気ある行動に感動し、「聖バレンタイン」と、恋人の守護神としてまつるようになりました。ヴァレンチノ司祭が処刑された日を「聖バレンタインデー」と呼ぶようになったのはこれに由来しています。

